

ともに地域の未来を創造し、
ともに持続的な成長を遂げる総合金融グループ

株式会社 十六銀行

〒500-8516 岐阜市神田町8-26 TEL.058-265-2111
<https://www.juroku.co.jp/>

設 立 ● 1877(明治10)年10月
代 表 者 ● 取締役頭取 村瀬 幸雄
従業員数 ● 2813名(男1793名・女1020名)

創業以来、受け継がれているのは「徹底したお客さま志向」。堅実さに加え、証券子会社の設立やスマートフォンアプリ上で残高照会や振り込みができるサービスの提供など、独創的な取り組みを次々と展開し、東海地区のリーディングバンクとして地域経済の発展に貢献している。

健康経営の
リーディングカンパニーとして
従業員の健康づくりを
多方面からサポート

十 六 銀 行



- 健康宣言を策定し内外に広く発信
- 食事面、運動面など幅広くフォロー
- 職場全員が定時で帰れる制度構築



十六銀行では、「健康経営」という言葉が広く言われるようになって間もない時期から、従業員の健康管理・健康づくりの推進に取り組む事業所を支援しています。そんな健康経営のリーディングカンパニーとして、同行の従業員・家族に対してももちろん、さまざまな角度から健康づくりへの取り組みをサポートしています。

健康経営事業所支援にいち早く着手

地域経済の活性化に積極的に取り組む十六銀行では、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することを旨とする「健康経営」にいち早く着手。2015年10月に、全国健康保険協会(協会けんぽ)岐阜支部と県内企業の健康増進や地方創生の推進に資することを目的として、「健康経営の取組み支援・普及促進に向けた相互連携・協力に関する覚書」を締結しました。

同時に協会けんぽ岐阜支部から健康経営推進事業所の認定を受けた企業や従業員向けの専用融資商

品を設け、健康経営の普及を広く後押ししてきました。

行内外に向け

「健康宣言」を策定

健康経営のリーディングカンパニーとして、同行の従業員と家族向けには、19年に「永続的に地域社会の成長に貢献するためには、従業員と家族の心身の健康が重要である」と考え、健康保持・増進に取り組むことを明文化した「十六銀行健康宣言」を策定。定期健診受診の徹底や特定保健指導の実施率の向上、こころの健康づくりのためのサポート体制の強化、ワークライフバランスの推進、業務効率化等による総労働時間の短縮な

どに向け、経営管理部長の指揮の下、経営管理部人事グループと従業員組合や健康保険組合等が相互に連携していくことを確認しました。健康宣言は、ホームページにもアップされており、ごなたでも確認することができます。



20年には経産省と日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」の認定を受けました。県内の金融機関としては初の快挙です。

高い健診受診率を維持

健診に関しては、以前から社内イントラネットを通じて健診内容を詳細に案内周知。未受診者に対しては、本人だけでなく上司にも

知らせ、必ず受けるよう知らせています。もともと健康への高い意識を持つ従業員が多かったこともあり、健康宣言翌年の特定健診は2473人中23309人(受診率93%)、特定健康保健指導は対象者323人中277人(同86%)と高い数値となりました。

人間ドックについては、申込書を健康保険組合でとりまとめて各健診機関に送付することで、それぞれが複雑な手続きを取ることもなく受診することができるように配慮。がん検診は人間ドック受診時におわせて受けることを推奨しており、胃がん、肺がん、大腸がんそれぞれで受診率82%となっています。人間ドック受診の際は、有給休暇を取得できるよう各職場で配慮したり、被扶養配偶者も受けられるようにしたりもしています。

17年から1回、ストレスチェックを実施。各職場のパソコンだけでなく、個人のパソコンやスマートフォンからでも受けられるようWebでの回答方式を導入。未回答者に対しては電話でフォローをするなどした結果、20年7月に実施した際の回答率は96%にまで上りました。

ストレスチェックは回答して終わりではもちろんなく、高ストレス者に対しては医師面談指導を案



職場全員が1週間連続で定時退行

ワークライフバランス推進のために、職場全員が1週間毎日、定時に退行する「フレッシュアップウィーク」を17年10月から毎月実施。フレッシュアップウィークの定着で、1カ月あたりの時間外労働時間の削減につながりました。

16年に開設した東海三県の地銀で初となる企業内保育施設「じゅろくスマイルルーム」は、午後7時30分まで利用できます。本店や名鉄岐阜駅からすぐの場所にあるため、子どもを預ける従業員から

内し、面接を通して自分自身でも気づいていない心と体の不調について把握、改善できる機会にしています。また、職場でこの集団分析を行い、人事上の改善指導にも役立てています。

は「送迎時のロスがないため、子どもと向き合う時間を作ることができると」などの声が上がっています。



食堂にご飯の計量器を設置

毎日の食事は従業員の健康状態を左右する上で欠かせない要素であることから、食生活改善に向けてのサポートにも注力。本店の食堂では、野菜をふんだんに使った日替わりメニューを提供。ご飯は各自盛り付け方式で、ご飯の配膳所には計量器と併せて、ご飯の重量とそのカロリーが目安表を掲示し、ご飯の摂取量を意識するよう促しています。従業員からは「ご飯の量をはかり、摂取カロリーを意識することで、腹八分目に抑える習慣ができました。おかげさまで午後の仕事が捗ります」などの声が上がっています。

ご飯の重量と、そのカロリーの目安
100g = 168 kcal
120g = 202 kcal (中盛)
150g = 252 kcal (普通盛)
180g = 302 kcal
200g = 336 kcal (大盛)
220g = 370 kcal
250g = 420 kcal
280g = 470 kcal
300g = 504 kcal

※150g程度の重量は、1握りに20g～25gです。

「喫煙者に対しては、禁煙治療を推奨して禁煙治療に保険が使える機会を提供

運動機会を提供するために、例年4月に岐阜市内で行われる高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンや、健康保険組合連合会岐阜連合会主催のウォーキングイベントの告知も行ってあり、多くの従業員が参加しています。ほかにも数社のスポーツ施設と契約して利用券(割引券)を希望者に配布し、運動の習慣化を促しています。



「喫煙者に対しては、禁煙治療を推奨して禁煙治療に保険が使える機会を提供

運動機会を提供するために、例年4月に岐阜市内で行われる高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンや、健康保険組合連合会岐阜連合会主催のウォーキングイベントの告知も行ってあり、多くの従業員が参加しています。ほかにも数社のスポーツ施設と契約して利用券(割引券)を希望者に配布し、運動の習慣化を促しています。

る医療機関」を健康診断時に文書で案内するなどしています。

経営管理部人事グループ平松尚樹課長は「引き続き、従業員の健康管理と活気ある職場環境づくりを通じて、健康で活力ある地域づくりもサポートしていきます」と話しています。



Pick Up!

十六銀行では、コロナ禍において早い段階での窓口を含む職員のマスク着用を認め、ホームページ上に告知文を掲載しました。本店、支店では窓口にアクリル板を設置したり、ATM利用者に対して間隔を取って並ぶよう床に足型サインを張ったりして職員と利用者の双方の感染拡大を予防しています。

また感染拡大の状況によっては職員に対して在宅勤務を推奨。外訪活動を自粛しても業務が継続できるよう、DX(デジタルトランスフォーメーション)化に力を入れています。